

谷田部東中通信

学校便り NO. 4

令和6年9月6日

つくば市立谷田部東中学校

初秋の候 保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、夏休み中には、県大会、関東大会、全国大会が開催されました。連日、熱中症警戒アラートが発令される中、選手やチームメイトは、お互いを鼓舞しつつ、大会に挑みました。市総体、県南総体に、引き続き、全力で最後まであきらめず立ち向かう凛々しい姿が見られました。また、代替わりした部活動では、先輩の思いを胸に練習に励んでいます。部活動だけでなく、職場体験、職場見学等、様々な場面での配慮とご協力に感謝申し上げます。また、これからも保護者のみなさまのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

では、夏休み中に行われた教育活動をご紹介します。

◎県総合体育大会

7月22日(月)に、神栖市海浜公園で行われた、男子テニス部、団体。初戦は水戸第四中学校。緊張感漂う中、田中・笠原ペアが激闘を制して流れを作り、2-1で勝利しました。続く2回戦、県北1位の十王中戦では、中川・藤田ペアが3番勝負に臆することなく、自分たちのプレーを貫き2-1で勝利を収めました。準々決勝、筑西 STC と対戦。小口・藤澤ペアが先陣を切りました。しかし、相手の技術力に及ばず、0-2で敗退。敗者復活戦(代表決定トーナメント)では、初戦、同地区の美浦中学校と対戦。広沢・朝倉ペアが直前の敗戦を引きずることなく、相手を圧倒し、2-0で勝利し、KST との関東決めへ。猛暑の中、8、9年の応援団も声を枯らしながら応援し、全員で戦うことができました。しかし、0-2と惜しくも関東出場は叶いませんでした。クラブチームの台頭が目覚ましい中、最後まであきらめずにプレーする姿にたくさんの方々の応援が後押ししていただいた大会でした。男子テニス部の目標とした「応援されるチーム」になれたと、顧問も部員も感じた大会でした。



7月23日(火)には、男子テニス部の個人戦が行われました。朝倉十兵衛さん、広沢郁斗さんペアと中川颯士さん、藤田峻士さんペアが出場しました。お互い第1回戦を順調に勝ち進み、第2回戦。どちらも土浦 STC のペアと対戦となりました。中川・藤田ペアはフルセットに持ち込めそうな展開まで粘り強くついていき、デュース3回目で相手のアドバンテージを許し、敗退してしまいました。朝倉・広沢ペアは、フルセットまで持ち込み、デュース2回目の後、相手がサービスエースを2回決め、敗退となってしまいました。接戦の末での敗退でしたので、とても悔しい結果となりましたが、強気な気持ちで、相手の裏をかくショットに感動を覚えました。また、お互いの顔を見て、闘志をむき出しにして声を上げる瞬間にも息の合ったペアならではのコミュニケーションが見られました。

同じく、7月23日(火)には、女子バスケットボールの初戦がありました。日立市にあります、池の川さくらアリーナで開催されました。対戦相手は、泉丘中。結果、87-47と、1回戦を突破しました。7月24日(水)2回戦目の対戦相手は、千波中。結果、68-41で勝利。ベスト4に入りました。続く午後からの、4チーム総当たりのリーグ戦での初戦は、十王中との対戦。最終結果は、73-48と。1勝を勝ち取りました。

連戦に続く連戦の翌日、7月25日(木)は、リーグ戦の2回戦目。取手一中との対戦。49-59と負けを喫し、ライバルである高崎中との対戦へ。今までの対戦では1勝1敗。負けられない戦いとなりました。第3クォーターまで差をつけられていたものの、結果57-52で競り勝ち、リーグ戦では2勝1敗となりました。高崎中も2勝1敗。取手一中も2勝1敗と三校三つ巴の結果となりました。順位づけは、得失点差となり、高崎中が優勝、本校が準優勝となりました。優勝校に勝ち点を取っているだけに悔しい結果ですが、関東大会出場を果たすことができ、関東での活躍を期待したいところです。

◎県南吹奏楽コンクール

7月26日(金)には、龍ヶ崎文化会館で、県吹奏楽につながるコンクールが開催されました。演奏順番は、1番手。コンクールの初演奏でもあり、その後の審査の基準となるとても緊張感のある順番です。その緊張感がある中、生徒たちは、堂々と演奏することができました。迫力を最大限に引き出すための、音の強弱。流れるようなリズム。そして一体感ある心地よい音の調べ。結果は、優秀賞、第3位。1位を目指していたため、悔しさと涙する部員もいました。週明けには、顧問と部員は、県吹奏楽コンクールで金賞を勝ち取るため、早速、猛練習に取り組んでいました。



◎第52回関東中学校陸上競技大会

8月7日(水)、駒沢オリンピック公園陸上競技場で、女子の4×100m リレーが行われました。前日の練習を経て、茨城選手団の一員として、他校の他競技の選手ともコミュニケーションを図りながら、大会に挑む姿がありました。リレーメンバーは、一走から、山田琴葉さん、齋藤亜美さん、倉持真央さん、野田朋咲さんです。結果は第3組、第8位。52秒36でした。

大きな舞台で、最後まで全力で走りきった4人に拍手を送りたいです。2日目、8日には、女子100mHで、倉持真央さんが出場しました。結果は、予選2組で4位。予選ではあっても、堂々とした走りを見せてくれました。午後には、川村大和さんの出場する砲丸投。1本目、2本目とファールとなり、3本目に11m27と記録を残しました。体調が万全では無いにも関わらず、周囲に不安を与えないようにと「大丈夫です」と笑いながら答える姿に責任と重圧にも負けない力強さを感じました。13mを超えることはできませんでしたが、全国大会での活躍に期待します。また、陸上は、茨城選手団として参加した大会で、川村さんは選手団の応援団長のような立場で応援をリードし、他校の生徒も全力で応援しました。この奉仕の精神、他者尊重の精神にも感銘を受けました。



◎第55回関東中学校新体操大会

8月7日(水)、石岡運動公園体育館で開催された新体操の関東大会には、近藤有矢さんが出場しました。最初のリボンの演技では、優雅で流れるような動きが指先までみられ、円を描くリボンにも熱がこもっていました。次のフープの演技では、高く頭上に投げられたフープをつかむことでさえ難しいと思える中、堂々と力強い演技をすることができました。入賞には至りませんでしたが、練習の成果を発揮し、輝いた場面が見られたことがとても良い経験となったと思います。また、茨城県開催ということもあり、茨城県選手団が一体となって、お互いに応援し称え合う姿もとても素晴らしかったです。



◎第54回関東中学校バスケットボール大会

8月7日(水)、千葉県の船橋アリーナで行われました。高崎中との再戦とリベンジを果たそうと挑んだ大会。1回戦は、東京1位の藤村女子中学校。結果、56-76で、1回戦敗退となりました。相手の身長の高さに臆することなく、最後まで闘志を保ち続けた気持ちの強さに感動を覚えた試合となりました。関東大会出場を目標に、中学校からバスケットボールを始めた生徒もいる中、気持ちを一つにして目標達成を見事成し遂げた9年生の姿は、とても立派でした。



◎第48回関東中学校水泳大会

8月9日(金)には、200m平泳ぎ、10日(土)には、100m平泳ぎと、2種目で、重永旭翔さんが出場しました。宇都宮にある日環アリーナ栃木で開催されました。9日では、2分35秒78で、組内で9位。10日では、1分12秒37で組内で6位でした。この1年間、部長として水泳部をまとめながら、高い目標をもってひたむきに努力し続け、去年の総体よりも、大幅にタイムを縮めて、大会に臨みました。自己ベストには至りませんでした。が、関東大会という大きな舞台で堂々と泳ぎ切りました。競技後、本人の表情は笑顔で、本人も泳ぎ切ったという充実感があつたようです。



◎県吹奏楽コンクール

8月12日(月)、金賞を勝ち取るべく、そして東関東吹奏楽コンクールに出場を目標に、猛練習の成果を発揮するべき日を迎えました。音の強弱や流れるような音の響きをさらに磨きをかけ、13:00前に出発しました。当日は、卒業生が荷物の運搬の手伝いをしてくださり、谷田部東中の伝統も背負っての出場となりました。先輩方、保護者の方、教員、生徒、一丸となって挑んだ結果は、金賞と第1位(朝日新聞社賞)のダブル受賞となりました。結果は182.5点。第2位は169.5点と、大差のついた評価をいただきました。強豪校が前後に控えている中で、堂々とした演奏ができて、結果を聞いた時には号泣して喜ぶ姿がありました。9月8日(日)宇都宮で行われる東関東大会に挑むこととなります。さらなる谷東旋風を巻き起こしてほしいと思います。

◎第51回全日本中学校陸上競技大会

8月17日(土)、福井県営陸上競技場で行われた全国大会。県大会で、全国標準記録、13mを突破した、川村大和さんが、この大舞台に立ちました。1投目は、13m台の投てきが見られましたが、残念ながらファール。2投目は、投げる際の回転が合わず、ファール。3投目は、十分な角度で投げるができず、納得のいく投てきになりませんでした。練習の際に13m越えを出していただけに悔しい結果となりました。ですが、全国という頂上での大会にエントリーするに値する技能や身体能力に驚かされました。悔しさは残るかもしれませんが、その根性と忍耐力、誠実さや責任感の強さに大きな拍手を送りたいです。

◎第8学年職場体験

夏休み中には、8年生の職場体験が行われました。まず保護者の方々、職場体験を受けてくださった企業の方々、お店の方々に感謝を申し上げたいと思います。生徒たちのキャリア教育には欠かせない職業観の醸成と育成には、やはり「働くことの意義」と「働くことの大切さ」「たいへんさ」や「やりがい」を肌で直に感じ取ることが一番の貴重な体験になります。その中、「保育園では、子供と接することの楽しさやたいへんさを学んだ。」「パンを焼くにしても売るにしても、お客さんファーストで心配りをする思いやりの心が必要」「バックヤードはすごく忙しくてたいへんなのに、笑顔でずっと対応しているのがすごい」などと、働く人のプロ魂や社会人としてのマナーを学んだようでした。

***学校長より

生徒の躍動ぶりは想像以上のものでした。それぞれの立場で、上位大会に挑む中での大会へのプレッシャーや疲労の蓄積等、精神的にも肉体的にも苦しい中、互いに励まし合い、認め合いながら、諸大会に堂々と立ち向かい、谷東生の「強さ」を感じることができました。また、どの大会を応援に行っても、生徒から「ありがとうございます」という感謝の気持ちを表すことができ、相手を思いやる優しい心も育っていったと思います。今後は、様々な教育活動に、この「良さ」が波及していくために、谷東生の「夏の躍動」をしっかり伝えていきたいです。